

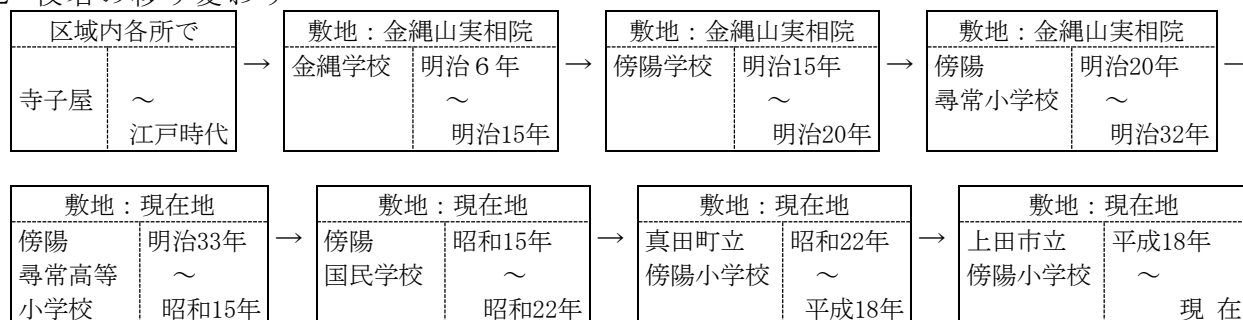
傍陽小学校区と立地、及び沿革略史

- 1 校 区 大倉・三島平・穴沢・上横道・中横道・下横道・
田中・萩・曲尾・大庭・傍陽中組・岡保・入軽井沢 計 13 地区

2 地 形

当地区は洗馬川と傍陽川の合流地域にあり、両河川による複合扇状地である。洗馬川の営力の方が大きいので傍陽川を西方に押している。曲尾はその扇端面に当たり、その南側の低い平面は神川扇状地との裾合い地である。洗馬川は横道より上流部ではV字形であるが、大良付近ではなだらかな傾斜面地帯が広い。半田入谷沢の北斜面は急な崖の連続で、川幅がそこに三島平・大倉を乗せている。大庭から入軽井沢までは狭く長い谷平野であるが、他の谷平野に比べて段丘面上の平地が狭く、河床面が広いことが特色である。大庭は東西 10m内外の段丘崖下の氾濫原の上にあり、中組・石堂は扇状地毛面上にあって、2mほどの段丘崖で氾濫原に接している。岡保は1m内外の段丘上に立地し、氾濫原から逃れている。入軽井沢から上流部の矢坪沢の合流するにあたりは両岸絶壁の大溪谷をなすが、その奥地に新田の小盆地がある。ここで鳴尾沢川と傍陽川が合流する。

2 校名の移り変わり



3 沿革の概要

明治 6年 12月1日に金縄山実相院の一部を借用して金縄学校を創立する。

15年 傍陽小学校と改称し、中等科を設置する。

19年 傍陽尋常小学校となり、授業料を徴集する。村内を巡回して、生徒体操を行う。

34年 高等科を設け傍陽尋常高等小学校と改称し、新校舎竣工開校式を行う。

大正 2年 器械体操、遊動円木をとりつける。

14年 校庭を拡張する。

昭和 15年 傍陽国民学校と改称する。味噌汁給食が開始される。

20年 東京都池袋第六国民学校の疎開児童約60名を、横道公会堂で受け入れる。

22年 傍陽小学校と改称し、傍陽中学校が開校される。傍陽学校PTAが発足する。

26年 開校50周年を迎え記念式典を行う。給食室を整備し、学校給食を開始する。

31年 横道・岡保両分校を廃止する。長・傍陽・本原の三中学校を統合し真田中学校となる。

42年 鉄筋本校舎、給食室、宿直室、音楽室竣工。改築記念式典を行う。

47年 開校100周年を迎え記念式典を行う。記念事業として「目にふじを」の碑建立。

50年 峰山・天狗岩全校登山。 53年 修学旅行、諏訪・松本から東京方面へ。

58年 東太郎山に全校登山。新体育館竣工。 60年 西トイレ改修。

平成 3年 鉄筋本校舎を全面改修する。

13年 パソコン教室、水洗トイレが完成する。

14年 木造校舎を取り壊し、特別教室の改築に入る。開校130周年記念式典を開催する。

15年 特別教室棟完成。校長住宅解体、駐車場に。前庭遊具を移動し、東側を駐車場とする。

18年 3月、市町村合併により、真田町立から上田市立となる。

25年 5月、耐震化のための校舎改築工事（南校舎）竣工。併せて開校140周年記念式典を開催する。
(記念事業：校庭に桜の記念植樹 航空写真撮影)

29年 信州型コミュニティースクール「傍陽の子どもを育む会」設立。ふれあい広場スタート

令和 元年 新学習指導要領に合わせ重点目標（グランドデザイン）改定（外国語・道徳の教科化。）

2年 新型コロナウイルス感染症により全国の小中学校が3月から約3か月休校。運動会等の中止・改変。

3年 感染に留意しながら学校生活再開。1人1台PC配備。

4年 ICT活用進む。学校内の行事や参観日を Google Meet にて行う。

5年 開校150周年記念事業を行う。コロナウイルス5類移行を受け、ふれあい広場再開。

6年 コロナ明け、来賓をお招きして、運動会や音楽会などの行事が開催される。

7年 肢体不自由特別支援学級「さくら学級」が新規開設する。